

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271600639		
法人名	有限会社あすなろ		
事業所名	有限会社あすなろグループホームまごころ		
所在地	長崎県五島市富江町職人307番地2		
自己評価作成日	平成22年10月20日	評価結果市町村受理日	平成23年1月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ngs-kaigo-kohyo.pref.nagasaki.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成22年11月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・理念の通り「思いやりとまごころ」をもってケアをするように心がけている。 ・ホームは自然に囲まれた静かな場所に立地し、時間に促されることなく自由にのんびり暮らすことが出来る。 ・食事は冷凍食品を一切使用しない「手作り」に拘り地元の食材を多く取り入れ、利用者の健康づくり力を入れている。 ・行事の際には、利用者・ご家族・地域の方々等大勢招き、盛大な会を催し、皆様に喜んで頂いている。 特に敬老会のプログラムは充実しており多方面からの出し物も好評である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームの玄関に入ると、施設長、事務長、職員の方々の笑顔で迎えて下さった。職員の離職も無く、馴染みの関係の中でケアが行われている。2つのユニットはそれぞれの趣きがあるが、両ユニットとも“穏やかで、ゆったりとした時間”が流れている。ホーム前の道路は車の通りが少なく、地域の方々の散歩コースにもなっており、ご利用者は自由に外出し、ご自分のペースで楽しく散歩されている。ご利用者同士の関係も温かく、他のご利用者の歩行器を準備し、エプロンを掛けてあげ、椅子を引いてあげたりと、日々の生活の中で支えあっている光景は続いている。夜に使用した湯たんぼの残り湯を洗濯機に入れて下さるなど、長年の知恵や得意分野を活かした役割も発揮して下さっている。ホームの食事は、行事食、おやつ含めて手作りが多く、畑で採れた新鮮な野菜も使っており、ご利用者も、毎回「美味しい～」と言って下り、食欲も旺盛なので職員も嬉しく思っている。ご利用者が散歩の時に摘んでこられた季節の花がテーブルに飾られており、季節感を感じながらの食事や団欒のひと時となっている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームが地域に溶け込み、入居者が孤立することなく生活出来る様、運営理念を作成した。 これまでと変わらない生活が出来ることを大切に、支援している。	「思いやりの心でまごころの介護を」という理念のもと、ご利用者の希望や不安の把握に努めている。会話を通じて趣味などを聞き、編み物やメモ紙作りを手伝って頂いており、ご利用者が持っておられるお力を発揮して頂けるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域の方々には、普段から気軽に声をかけ、敬老会に招待したり、祭のみこし、幼稚園児を招いたりするなどして積極的に交流を図っている。	町内会に加入し、ご利用者と職員で回覧板や廃品回収の活動等に参加している。お大師様に行ったり、町民体育祭等、地域の行事に参加されている。22年10月に初めて、ホームでの誕生会に保育園児をご招待し、踊りも披露して下さい。近隣の方からお花や野菜を頂くこともあり、地域の方々との関係も良好である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民や入居者を交え施設前のベンチで会話したり、ホーム内に招くことによって、認知症の方への理解を深めていただくよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議後、必ず職員会議等で内容報告をし、参考にしている。又、会議を行なっている中で情報交換も出来る為、今後も継続していきたい。	今年度から、ほぼ2カ月毎に会議を開催しており、ご利用者、ご家族、町内会長、民生委員、市の職員が参加されている。ホームの状況を報告しながら、参加者の方と意見交換をされている。ホーム内の環境(温度管理等)も報告しながら、健康管理との関係性も含めて説明を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場へ積極的に足を運び事業所の実績を伝え、情報収集もしている。同業者からの情報もある。役場主催の研修等には必ず参加している。	申請の手続きやホーム便りを持参する時等に、ホームの状況を報告している。富江支所の課長は、毎回、運営推進会議に出席して下さい、「土日、夜含めて自分達が休みの時にも、何かある時はいつでも声をかけて下さいね。対応しますよ」と気軽に言って下さっている。敬老会の時は、ビデオ撮影をして下さった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束禁止マニュアル」を全職員が理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関、居室の施錠はせず、網戸にして開放している。	マニュアルもあり、職員は身体拘束を行わないケアに取り組まれている。ご利用者個々の行動に目配りを行い、日中は鍵を掛けており、ご利用者が自由に外出されている。近所の方も見守りをして下さっている。ホームの周りに咲く花を摘んでこられたり、ホームの畑に行って食事に使う野菜を取ってきて下さる環境が保たれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束とは何か、全職員が十分理解しており、身体拘束廃止に関する外部研修会にも積極的に参加している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用している方がいるので、職員間で勉強し、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時等、契約書や重要事項説明書などの重要箇所は線引きや繰り返し説明する事によって十分理解・納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	目安箱を玄関に設置し意見等を取り入れている。入居者に対しては、常に傾聴する態度で接し、家族には、面会時や家庭訪問時に要望等を伺っている。	運営推進会議やご家族の面会時や、ほぼ毎月行われている事務長や計画作成担当者の方々の家庭訪問時に、ご家族から直接ご意見を頂いている。ご家族より「体調が悪くなったら教えてほしい」等のご希望を受け、ご家族の不安を少しでも和らげるように密に連絡をする等、適宜、個別の対応を行っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議・雑談時、意見交換する機会があり、それを反映している。	職員は、ミーティングの時等を通して意見を活発に伝えている。職員は、それぞれのご利用者が、元気で健康に気をつけて、寄り添って笑顔で過ごせるように、最期まで「ここで良かった」と思ってもらえるように、日々、意見やアイデアを出し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に職員とコミュニケーションを図り、各自が向上心を持って働けるような環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に計画を立て、積極的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	食事会や敬老会・花見などの交流は多い。他施設へ訪問し、勉強会に参加している。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者の言動、行動を観察し、不安感がないか入居者の目線で話を聞き、見極めるよう努めている。 安心を確保する為、その方の側に座りスキンシップを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の気持ち、要望を十分理解した上で事業者として出来ること、出来ないことを説明し、納得していただきサービスの開始を実施している。（事前に話し合いをしている）		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を聞き十分理解している。施設を何度か訪問していただき、顔なじみの関係を築き、その中で信頼を得る。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で利用者との裁縫・調理などの共同作業の中から学ぶことがあり、又、手助けをすることで関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所の機会を作るために行事を企画したりしている。なるべく面会にきていただけるようお願いしている。訪問時は、家族も一緒にレクリエーションに参加し、体操等を一緒にしたりすることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	洋品店、病院、銀行、郵便局など、入居者本人のこれまでの「付き合い」を大切にしている。	ご利用者やご家族の希望に応じて、馴染みの美容院や洋品店へ出かけたり、郵便局へお連れしてご利用者が書かれたご家族宛ての手紙を、ご自分で投函して頂く等の支援を行っている。同法人の宅老所には、知り合いの方もおられ、宅老所で一緒に昼食を食べるなどの支援も行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ひざ掛けを掛けてあげたり、上着を着せてくれたり、髪の毛をといてあげたり、日々の生活の中で、支えあっている光景がよくみられる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病院に見舞いに行ったり、他の施設に会いに行く等している。亡くなられた際には、葬儀に参列したり弔電を打っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを通じて、思いをくみ取る努力を本人の意向を優先的に考えている。話を聞いて解決困難な場合は、そのままにせず本人本位に検討している。	日々の生活の中で、ご利用者との会話を通して、ご本人がやりたい事、食べたい物、行きたい場所等、ご本人の希望や要望の把握に努めている。お話ができない方にも、職員は声かけを続けながら、表情や行動から、ご本人の思いを把握するようにしている。独自のアセスメントシートを活用して、ご家族からも意見を伺っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントや家族からの情報でこれまでの生活の経過を把握している。使い慣れた家具を持ち込み趣味を生かすための物品を持参したりすることで個々の暮らしを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝のバイタルを参考にする等入居の心身状態の把握。 一人一人の一日の流れを全職員が把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	来所持や電話連絡により、家族の意向、又、入居者との会話の中で希望や思いを聞き取り、ケアプラン作成に活かしている。月に1回アセスメントと3ヶ月に一度の計画の見直しを実施し、その時の状況に応じた介護計画を作成している。	ご利用者の担当職員が作成した計画の原案を、会議を通して全職員で検討を行い、計画作成担当者が計画としてまとめあげている。計画は、主治医や管理栄養士等、専門職からの意見も頂きながら作られており、ご利用者が楽しみにされている買物やドライブ等、盛り込まれている。計画には、ケアの内容や手順等も細かに記載されている。	日々行われているケア内容も細かに記載されていることから、短期目標の期間を記入されてみてはいかがであろうか。また、ご本人、ご家族、主治医、管理栄養士等、職員以外に関わりのある方々も計画に盛り込まれてはいかがであろうか。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入所者の変化・気づき等は申し送り帳や、介護録に記入し、全職員で情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、入居者のその時の心身の状況や、希望に応じて対応している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事以外にも地域の方々・地元の警察官・民生委員の方が訪問したり、又、年2回の防災訓練時には、地元の消防署に協力依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の希望する医療機関を選択している。定期受診時には、職員や家族が同行している。施設への往診もおこなっている。状態の変化が見られる場合は、家族へ連絡し、可能な限り家族も一緒に主治医からの説明を受けている。	定期受診の通院介助は職員が行っているが、体調の変化がみられる時には、ご家族に同行して頂き、医師からの説明を受けて頂いている。結果についてはご家族の訪問時に行い、急ぎの場合はその都度電話で報告している。月1回の往診や訪問看護を利用することで、いつでも相談できる関係が築かれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療機関主催の勉強会は参加した時や、受診時に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中も利用者が安心して治療出来るよう、職員交代で面会に行き、経過を把握している。退院時には、主治医から看護サマリーを頂き、口答での説明も受けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に事業所として対応出来ること、出来ないことを説明し、納得した上で、主治医、家族からの意見要望を取り入れケアを行えるように努めている。(以前、ターミナルの方を介護している)	ホームでの看取りを希望される方が多く、事業所が医療機関ではないことを十分理解頂いた上で、可能な限り、ホームで生活頂けるよう、対応を心がけている。ご利用者の状況の変化に応じて、ご家族と主治医を交えての話し合いの場を持ち、ご利用者の状態を把握しながら、方針の共有を図っている。医療機関への相談、ご家族への協力依頼、職員間での勉強会を通して看取り支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング時、緊急時対応マニュアルにそった勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防総合訓練を定期的に行い実践訓練を実施している。緊急時に備えて地域住民へ協力依頼し了解を得ている。	年に2回、防災管理会社の職員の立会いのもと、ご利用者と職員で避難誘導訓練を行っている。あらかじめ町内会長と地域の消防団員へ協力依頼を行っており、災害時にはホームの自動火災通報装置を通して連絡が行くようになっている。災害時に備え、水、食料、懐中電灯、非常持ち出しバック、緊急時連絡先一覧表等を準備している。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	名前「〇〇さん」と苗字で声掛けし、居室へ入室の際は、ノックするなどプライバシーの尊重に心がけている。	年長者への敬意を持った言葉かけの仕方等、新人研修で指導が行われており、職員の休憩室には“非4原則(してはいけない事)”が掲げてあり、職員が業務に入る前に確認できるようにしている。地域密着型ということもあり、地域の方々と交流する機会も多く、職員は、個人情報の漏洩には細心の注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の中で本人の希望、思いを引き出すと共に自己決定できるような言葉かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれ自由にテレビを見たり、隣りに遊びに行ったり、居室でくつろいだりと自分のペースで生活している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身だしなみ、外出時のおしゃれなど声掛けし支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みの料理をメニューに加え、皆で楽しい食事の時間を過ごしている。 利用者のその日の気分で職員と一緒に食事の準備、おやつ作り、片づけをお願いしている。	献立は、ご利用者の希望を聞きながら職員が考えており、月に1回、市の管理栄養士に確認してもらい、助言を頂いている。敬老会等の行事食も職員手作りのお膳となっており、ポン酢やドレッシング、すり身も職員手作りのものを提供している。「美味しい、みんな上手ね」と、ご利用者からお褒めの言葉を頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の水分、食事摂取量を把握し、食事量のチェックをしたり、水分量を確保する為の定期的な水分補給をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には、必ず口腔ケアを実施し1回/週義歯やコップ、歯ブラシ等の消毒も実施し、清潔に心がけている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンや習慣を把握し(排泄チェック表の活用)食事の前後等定期的にトイレ誘導し、自立にむけた支援をしている。	職員は、ご利用者の排泄間隔に応じたトイレ誘導を行っており、ご利用者の行動から“トイレでは”と気づいたときには、早めのトイレ誘導を心がけている。職員は、トイレにカーテンをかけたリ、さりげなく居室へお連れして着替えて頂く等、ご利用者の羞恥心への配慮に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに飲用して頂いたり、料理献立には、牛乳や根菜を多く食材に取り入れる工夫をしている。 レクレーション内容に心がけ、身体を適度に動かすような言葉かけもしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者本人の希望や、その日の体調を考慮し、職員と楽しく会話しながら、ゆっくりと入浴して頂いている。	入浴回数や時間帯、湯温の希望をお聞きし、ご利用者の好みに沿った入浴支援が行われている。入浴を好まない方には、無理強いせず、職員が交代して声かけしたり、時間を置いて声かけをしたり、足浴を行う等の支援が行われている。羞恥心に配慮し同姓介助を行ったり、季節に応じて、菖蒲湯、柚子湯も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の適度な活動量の確保に努めている。 冬場は湯たんぽ使用、毎日足浴を実施するなど安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示を十分理解し、薬の目的、作用、副作用を理解しながら、服薬の支援をしている。体調の悪化を見逃さないよう、観察を十分に行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人出来ること、出来ないことを見極め、新聞折りや調理準備・掃除など自分の得意な事を楽しみながら行なっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の天気、身体状態を考慮し、可能な限り利用者本人の希望する場所へ散歩、ドライブ、買物等に同行している。	ホーム周辺は車の往来も少なく、格好のお散歩コースとなっている。ご利用者は、ほぼ毎日ホーム周辺の散歩を楽しまれており、ご利用者の希望に応じて、馴染みの店への買い物やクリスマスイルミネーションの見物、季節ごとの花見や海を見に出かけている。近隣の施設の中にある喫茶スペースにコーヒーを飲みに出かけることもある。外出が少ないご利用者でも、週2回は外出しており、屋外での活動を楽しまれている。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	数名は自己管理しており、金銭の紛失事故を防止するために職員見守りのもと、入所者本人の希望に応じ、買物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話があれば居室に子機を持参し会話して頂いている。又、手紙の読み書きが出来ない方には、代読、代筆の支援もしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレもカーテンで目隠しし、プライバシーを損なわない配慮をしている。 玄関、食堂は季節の花を飾るなどして、落ち着いたような空間作りに心がけ、心地よく過ごせるように工夫をしている。	各ユニットのリビングでは、ご利用者同士の会話を楽しめるように、テーブルを囲んで座るように椅子が配置されており、ひざ掛けや足代を活用した寒さ対策も行われている。職員は、テレビの音量や部屋の明るさの調整等、環境への配慮を細かに行き、温湿度の調整については、運営推進会議で報告を行っている。ホールの壁には行事の写真が掲示され、テーブルには、季節の花が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各居室で過ごしたり、食堂で過ごしたり、それぞれのんびり過ごせるように心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の大切にしているものは、身近に置いて、家の中にいる感覚で過ごして頂いている。 (使い慣れた物品の持込を勧めている)	入居の時に、馴染みの物を持って頂くようにご利用者とご家族へお伝えしており、自宅で使っておられたタンスや写真、裁縫箱やお仏壇を持って入居されたご利用者もおられる。入居後も、ご利用者やご家族と相談しながらタンスの位置やベッドの向きを変えるなど、ご利用者に居心地良く過ごして頂けるよう、工夫を続けている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身の回りの事など出来る限り、自分で出来るよう支援する。利用者本人が悩んだり、手助けが必要な時は、さりげなく支援する。建物内部各所には、自立ができるように手すりを設置し安全を重視した環境作りに心がけている。		

事業所名: 有限会社 あすなろ グループホーム まごころ

作成日: 平成 23 年 1 月 15 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	16	家族アンケート集計結果に基づいて改善すべき点	遠方でなかなか会えない方には介護計画、病院受診後家族に電話等で結果報告する。	ケアプラン作成時、病院受診後家族に電話等で結果報告し密に連絡をとる。	随時 ヶ月
2	26	ご本人、ご家族、主治医、管理栄養士等、職員以外で関わりのある方々が計画に盛り込まれていなかった。	介護に関わる全ての方々を計画に取り入れて行きたい。	関係者との交流を深め連携が出来るような関係作りに力を入れたい。	随時 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月